

# メーリングリストを使ったニュース配信の 実施と課題

園原麻里

慶應義塾大学医学メディアセンター

**はじめに：**当報告では、慶應義塾大学医学メディアセンターにおけるメールを使ったニュース配信の活動開始の経緯から現時点における課題までの説明を目的とする。

**サービス開始の経緯：**医学メディアセンターでは、従来から紙媒体による広報誌（きたさとニュース）を発行するほか、HPなどで新サービスや電子リソースの案内などを案内してきた。加えて、個人宛メールや来館者に対面でサービスの案内・普及を行ってきた。

しかしながら、利用者が来館せず、ネットワークを介して電子リソースを利用するようになるなど、利用者の行動に変化が現れてきたため、来館しない利用者への広報を考える必要が生じてきた。そこで新たな広報手段として本サービスの導入が提起された。

**準備：**とりきめ事項の確認、システム整備、広報の3点について準備を行った。

利用対象者やメールの内容、登録方法等について取り決め事項が話し合われた。システム面では、メールアカウントの整理や配信のための共有端末を整備した。またニュース開始の広報として、HPのニュースや館内でのチラシ配布のほか、専任講師以上の教員約250名に院内便にて案内を送付した。

**メール配信の現在の状況：**メール配信の登録者は、現時点までに79名にのぼっている。登録者数の内訳は、所属教室別に、中央臨床検査部の8名、解剖学教室・放射線診断科、薬剤部、神経内科の4名の順となっており、他教室については3名以下と分散している。

配信回数は5月13日現在29回を数えている。配信したニュースの内容は、電子リソース系の紹介記事が17回、利用講座の案内および新サービスの案内が5回、臨時休館のお知らせ4回、書庫移動など館内サービスに関するお知らせが3回となっている（のべ数）。

**課題：**利用者のニーズの把握と今後の新たな登録者に向けた効果的な広報の2点である。

ニュース配信停止希望の申込は今までになく、送信エラーもないので、ニュースは毎号登録者全員の手元に届いているものと思われる。しかしながら、今までに登録者の意見を聞くフィードバックの機会がなく、利用者が必要としているニュースが提供できているか把握できていない。

上記の解決方法として、他大学からの情報収集と、登録者に対するアンケートの実施を予定している。現在のニュース登録者へのアンケートから、現在のニュースに対する満足度が高い登録者の傾向が把握できれば、潜在的にニュースを希望している利用者層が把握できるため、ニュース配信の広報が、今後より効率的に行えるのではないかと感じている。また他大学からのアンケート結果より得られた知見を生かし、ニュース配信をはじめとした広報活動の一指針としたいと考えている。